



本銀行  
広事務所長  
鈴木 正信

冬の朝の寒さに耐えてこそ味わえる十勝ならではの絶景です。毎回、スマホを持つ手の指がちぎれるのではないかと思うほど痛み思いをしますが、それに耐えるだけの価値があります。

トリーのコースがきれいに整備され、板やブーツなどの必要な道具を無料で貸し出してくださいます。これを聞きつけ、この

冬、全で初めて歩くスキーリーに挑戦しました。最初はスキーのスケーティングと同じだろうと高をくくっていたのですが、やつてみるとどうでしよう。立つことすらままならず、まるで生まれたての子鹿状態です。何とか進めようにはなったものの、次はそのハードさにびっくり。ランニングなど比較にならないほど体力を消耗しました。

季節は変わって春を迎え、生まれて初めて山菜（行者二ン二ク）採りに連れて行つていただきました。首都圏では意識しないと山菜にはお目にかかれませんが、十勝では皆さん手軽に味わつていらつしゃいます。ジンギスカンと行者二ン二クの相性は抜群。地元産の太いアスパラをはじめとした新鮮な野菜など、季節の味わいを存分に堪能

は毎年育てる作物が異なるため、その場所、そのアングルで同じ畠のアートなどの景色を眺めることができるのは4~5年めのこと。そう思うと一層貴重な景色に見えてきます。

目を移せば、黄色に彩られた菜の花の景色や香りとともに、春セミの大合唱が聞こえてきます。うるさいと思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、

身近なことへの感謝の気持ち

十勝にやつてきて丸2年がた  
ちました。

厳しい冬も2回経験しましたが、十勝の冬は、早起きするだけ得をするということを実感しました。いてつく十勝川のけあらし（雲龍）や霧氷、ジュエリーアイス。夜明けの雪原やハルニレの木、ヌプカの里や晩成などからの初日の出、朝日に赤く染まる日高山脈。どれもこれも

が、同時に冬のトレーニングとして最適な運動だということを実感しました。また、つらい思いをした分の「裏美」でしょうか、帯広の森のコース内でシマエナガやエゾフクロウを間近で観察することができたのです。こんな経験ができる環境が街田にあるなんて、なんと幸せなんだとでしょう。

春は、農家の方々にとつて種まき・苗の植え付けの季節です。私は畠のアートがたまらない好きで、畠とその隣の小麦の緑やその先で白く輝く日高の山並み眺めては癒やされていました。しかもこの景色、ただきれいなだけではありません。畠で

貴殿当たり前だと思つていい  
ことは、目を変えると恵まれて  
いるという感じでもあり得ま  
す。人生・仕事も同じですが、  
自分の置かれている環境・立場  
から一步引いて俯瞰（ふかん）  
してみると、違った光景  
ありがたきに気付くかもしまれま  
せん。これからも感謝の気持ち  
を忘れずにいたいと思います。

論壇